

No. 06

総合病院 土浦協同病院
広報誌 touch (タッチ)
TAKE FREE

touch

contents

ふれあい：桜川堤の桜
院内探訪：防災センター
かけはし：烏山診療所

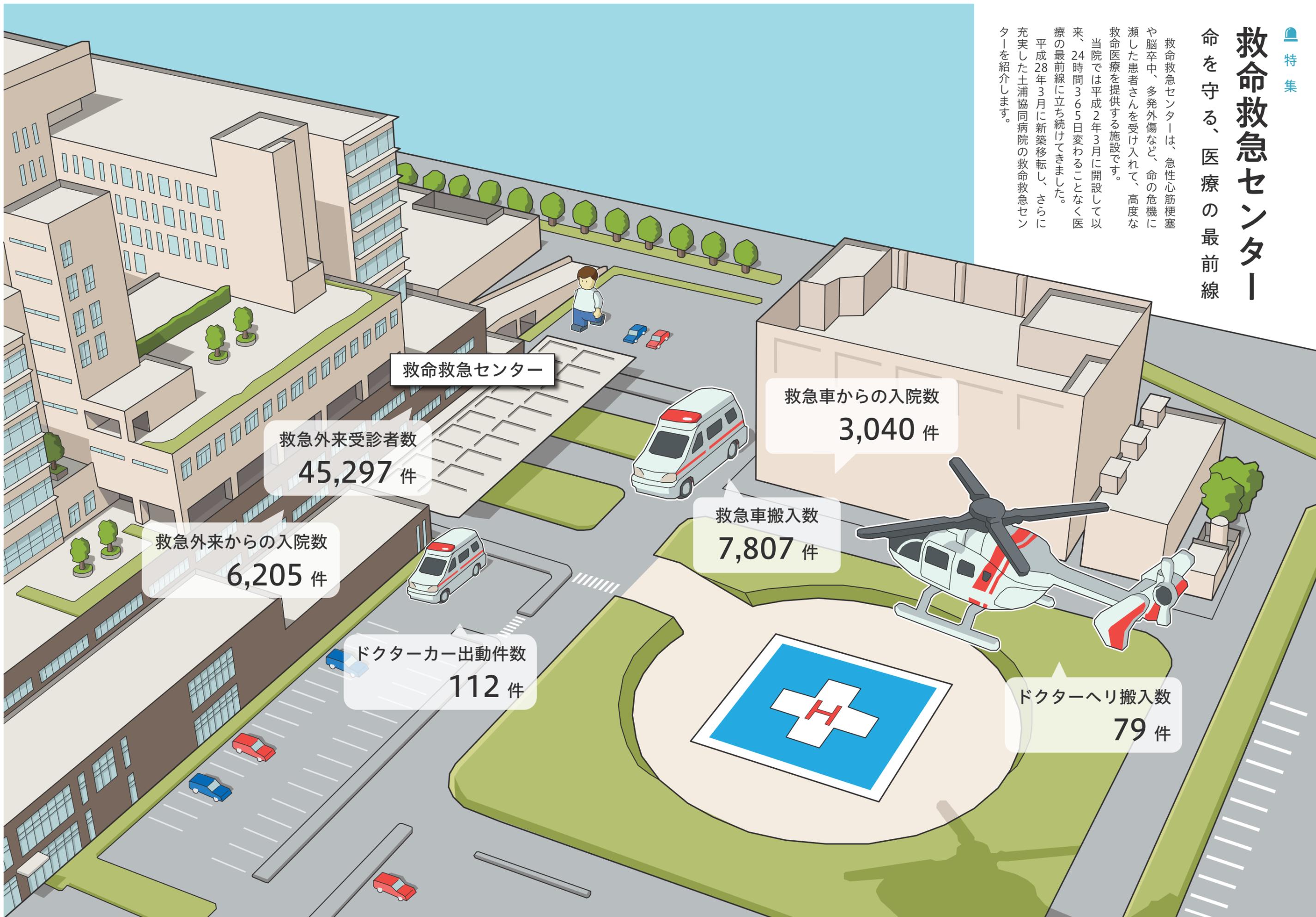


特集：救命救急センター —命を守る、医療の最前線—

救命救急センター

命を守る、医療の最前線

救命救急センターは、急性心筋梗塞や脳卒中、多発外傷など、命の危機に瀕した患者さんを受け入れて、高度な救命医療を提供する施設です。
当院では平成2年3月に開設して以来、24時間365日変わることなく医療の最前線に立ち続けてきました。
平成28年3月に新築移転し、さらに充実した土浦協同病院の救命救急センターを紹介します。



救命救急センター

救急外来受診者数
45,297 件

救急外来からの入院数
6,205 件

ドクターカー出動件数
112 件

救急車からの入院数
3,040 件

救急車搬入数
7,807 件

ドクターヘリ搬入数
79 件

救命救急の最前線

救急集中治療科の役割

インタビュー 救急集中治療科長 荒木 祐一
地域の基幹病院として、
これからも救急医療の充実を目指したい



荒木 祐一
2000年筑波大学医学専門学
群卒業。2004年土浦協同病
院麻酔科勤務を経て2012年
に救急集中治療科を立ち上
げ、同診療科科長となる。

救急集中治療科では、内科系外科系に拘らず、バイタルサイン（生命徴候）をみて命に関わる重症な患者さんの治療を担当しています。主に救急車やドクターヘリで来院される方が対象です。初期診断・初期治療を行う上で、全身管理が必要な患者さんは引き続き自分たちが担当し、そうではない専門的な治療が必要な患者さんは各診療科の専門医にお願いしています。

当科の主な役割は呼吸・循環管理、いわゆる心肺機能の管理です。これにより、まずは命をつなぎ、その間に各診療科を集めて専門的な対処を行います。当院の救急集中治療科は全員が麻酔科医としての専門知識を備えているのが特徴で、これは呼吸・循環管理に関してはスペシャリストと言えます。また、基本的に全ての診療科を24時間いつでも招集できることも当院の強みです。

移転後は、ドクターヘリの受け入れ、ドクターカーの出動も強化されました。移転前から受

け入れはしていましたが、移転後にヘリポートを設置したため、大幅に件数が増えました。ドクターカーも平成28年に要請基準を緩和したことがきっかけで出動件数が増加しました。土浦はもちろん、鹿行地域にも範囲を広げ、かすみがうらからの出動要請も距離が近づいた影響から増加傾向にあります。もうひとつ、移転を機に高機能患者シミュレータを導入し、医師、看護師、医療スタッフを対象に本格的なシミュレーション医療教育を開始しました。病院全体のレベルアップを図るためにも、力を入れていきたいポイントです。

救命救急センターが拡充されたことで、当科が果たしていく役割も大きくなったと感じています。当科のスタッフを充実させることができれば、全ての救急車をまずは当科で診断・治療し、その後に各診療科へお願いする、といった対応もできると思います。また、広い茨城県をカバーするにはヘリ機では足りません。いずれは当院がドクターヘリの基地病院となり、県南地域の要として救命救急センターの使命と責任を果たしていければと考えています。

ドクターカー

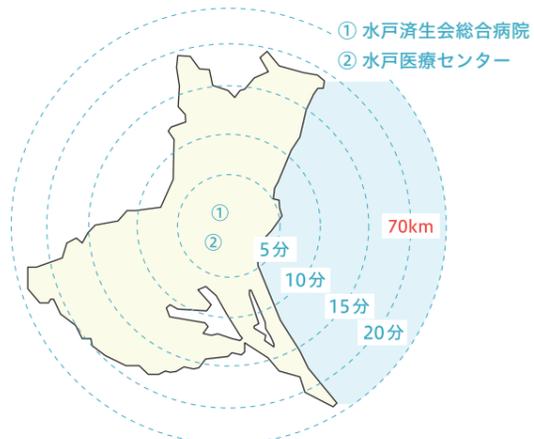


病院前救急は救命において重要であり、ドクターカーを使うことによって、医師でなければできない処置を病院到着前に実施できます。

☑ 当院の要請基準

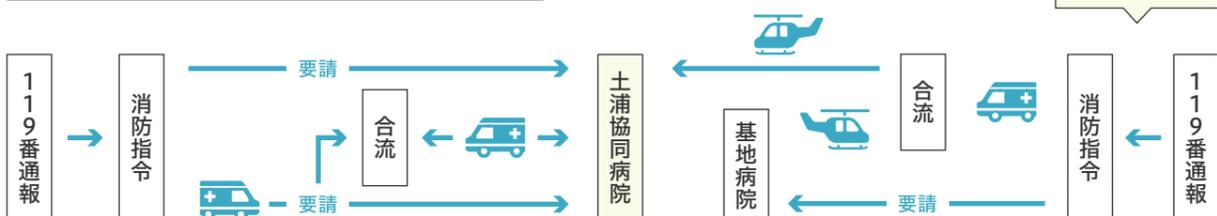
- ① 生命の危機が切迫しているか、その可能性が疑われるとき。ただし、明らかな心肺停止状態患者の場合は基準外とする。
- ② 重症患者（コントロール不能のショックなど）や特殊救急疾患（多発外傷、重症熱傷、四肢切断など）であって、医療チームの現場投入、もしくは搬送途上で合流し医療チームを投入することが、患者にとって有利になると判断される場合。
- ③ 救急現場での救急診断処置に医師を必要とするとき。
- ④ 多発傷病者発生事案。

ドクターヘリ



茨城県のドクターヘリは水戸医療センターと水戸済生会総合病院の2箇所を基地病院として運営されています。県内のどこへでも要請からおよそ30分以内での到着が可能です。当院では茨城県の他、千葉県ドクターヘリ（日本医科大学千葉北総病院）からの搬送要請も受け入れています。搬送先は、あらかじめ定められた合流地点から、最も近い受け入れ可能な病院が選ばれます。

搬送の流れ



救急教育

当院には、救急医療の教育と実践の場を提供するという使命もあり、臨床研修医・医学生・看護学生・救急救命士・救急隊員などの研修を積極的に受け入れています。また、救急集中治療科が主体とな



高機能患者シミュレータ

って、院内の医療従事者に向けた研修も定期的で開催しています。救急の現場では、実際の患者さんを前にして手取り足取り教えるということではできません。そのため、写真のようなシミュレータを用いた教育が効果を発揮します。



PCPS 訓練の様子

☑ PCPS

PCPS（経皮的心肺補助）は、心臓と肺の両方の機能を補助するもの。通常の人工呼吸では生命維持が困難な場合に行う。

救急外来と集中治療室

救命救急センター

- 救急外来
- 集中治療室：39床
 - EICU（救急）：12床
 - GICU（一般）：10床
 - CCU（冠疾患）：8床
 - SCU（脳卒中）：9床



救急外来



EICU

救命救急センターは救急外来と集中治療室から構成されています。当院の集中治療室は4つに分けられており、それぞれの特性にあわせて重症患者さんの治療を行っています。集中治療室と手術室、

心臓カテーテル室などは全て同一フロアに置かれ、救急外来とは直通エレベーターで結ばれています。これにより、水平・垂直方向で切れ目のない移動・連携が可能になりました。

院内トリアージシステム

院内トリアージは、診察に待ち時間がある場合、病院に自己来院された患者さんを対象に専門の看護師、医師が緊急度を判定し、治療の優先順位を決定する仕組みです。限られたスタッフで全ての患者さんに対応する救急の現場において、効率よく効果的に医療を提供することができます。

院内トリアージの流れ

窓口での受付

- ・問診表の記入
- ・血圧、体温測定

問診

- ・問診室にて問診

緊急度判定

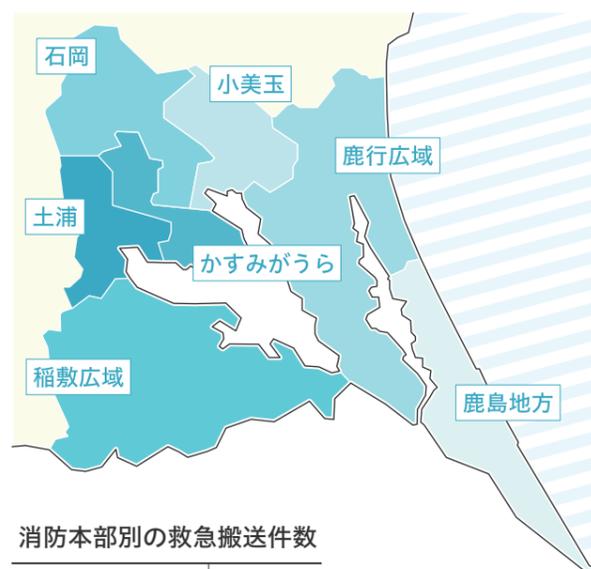
- ・症状、問診による情報から緊急度判定
- ・診察順、場所の決定

医師の診察

- ・より緊急度の高い患者さんから診察

診察の順番は受付順ではなく、緊急度の高い患者さんからになります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

地域医療の砦として



消防本部別の救急搬送件数

土浦	3109
かすみがうら	1151
稲敷広域	923
石岡	876
鹿行広域	818
小美玉	322
鹿島地方	208

(平成29年)



上記7つの消防本部からの救急車搬入が全体の95%を占めており、県南・鹿行エリアの救急医療に力を注いでいることがわかります。



松宮 直樹

1979年札幌医科大学卒業。1985年筑波大学臨床医学系、1987年ジョーンズホプキンス大学医学部を経て1990年土浦協同病院麻酔科科長。2003年に救命救急センター長、2012年に副院長兼救命救急センター長に就任。

地域を守る最後の砦 当センターの特徴と役割

インタビュール副院長兼救命救急センター長 松宮直樹
病院が持つ全ての力を結集して、
地域の医療を守ります

当院は総合病院として多くの診療科を有していますが、その全てが救急医療に携わっています。日勤帯には各診療科から救急当番が配置され、専門的な治療が必要な患者さんへの対応を可能にしています。夜間・休日においても救急科をはじめ内科系、外科系、小児科や産婦人科、脳卒中に対応する脳神経外科、神経内科、循環器疾患に対応する循環器内科など多くの医師が常駐しています。また、必要に応じて各診療科の専門医を招集し、日夜問わず、全ての患者さんに対応できる体制を整えています。さらに、一次救急から三次救急まで幅広い診療を行っていることも特徴で、これには訓練を受けたトリアージナースによる院内トリアージが効果を発揮しています。医師をはじめとする様々な医療スタッフが一元となり、病院が持つ全ての力を結集して地域の医療を守るための努力を続けています。

新築移転後は、救急外来の施設・設備面で大幅な強化を図り、さらなる診療の充実を実現しました。単純ではありませんが「救急外来が広くなった」ことが非常に効果的で、旧病院では外来がいつばいで救急車の搬送要請を断らざるを得ないケースもありませんでした。移転後はそういったこともほとんどなくなり、モニターや医療機器なども最新の設備を揃え、規模に見合った質の高い医療を提供できるようになりました。

救急車の受け入れに関しては、地域の砦としての使命と責任を持ってあたっています。救急車の応需率も90%以上という高い水準を保っており、二次医療圏はもちろんのこと、大型ヘリポートの設置によって鹿行地域や稲敷広域からの要請も積極的に受け入れています。

近年、高齢化によって敗血症性ショックや誤嚥性肺炎など、救急搬送において内因性の疾患が占める割合が増加傾向にあります。高齢の患者さんには、家族を含め様々な社会的支援が必要になります。当院の社会福祉士はとも頑張ってくれていますが、今後はそういった救急医療の質の変化に、地域全体で対応していくことが必要になってくるのではないのでしょうか。

看護部
看護師 渡邊陽子

no.11



声なき訴えを
見逃さないように

EICU病棟にて、主に救急外来から入院になる患者さんの看護や呼吸循環管理を担当しています。EICUに入院する患者さんは重症の方が多く、意識障害や気管挿管などによって、ご自身のつらさや痛みなどを伝えられない場合もあります。だからこそ、患者さんの状態をよく観察して、声にならない訴えをこちらから察することが大切だと

勤続年数：9年 趣味：旅行

考えています。また、ご本人はもちろん、ご家族も突然の入院に不安を抱えています。ご家族のケアも併せて行うよう気をつけています。
EICUでの経験から、食事が健康にとっていかに大切かを実感しました。食事に関わる摂食・嚥下看護への理解を深め、認定看護師の資格を取得できたらと考えています。学んだことを活かして、患者さんの回復に少しでも貢献できたらこんなにうれしいことはありません。



桜川堤の桜

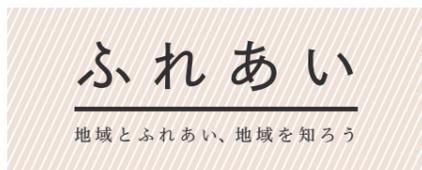
筑波山麓の、のどかな田園地帯を下り、土浦市の中心市街を流れて霞ヶ浦に注ぐ

桜川は、茨城県桜川市の鉄柄山を水源とする河川です。河川流域は8市町村に及び、それぞれの歴史や文化と深く関わっています。

元々は、鬼怒川に支流として合流する川であり、霞ヶ浦に注いでいたのは鬼怒川でした。鬼怒川が西に移されたのをきっかけに、支流であった桜川が霞ヶ浦に流れこむ現在のようになつたとされています。

桜川堤の桜は、明治43年に邊田象蔵氏が足の病気が全快したことを道祖神に感謝し、200本の桜を寄進したことが始まりです。現在は霞ヶ浦河口から約4kmにわたり、およそ500本のソメイヨシノが植えられています。

土浦市には桜の名所が数多くありますが、桜川堤もそのひとつで、毎年行われている「土浦桜まつり」の会場にもなっています。期間中は夜間のライトアップも実施され、見事な夜桜を楽しむことができます。



桜川堤
茨城県土浦市（田中地区～蓮河原地区）

看護師だからこそ
できる支援を

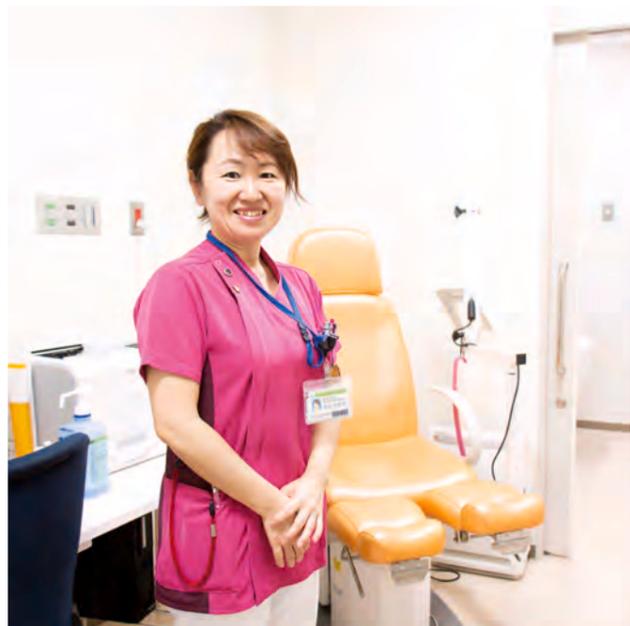
糖尿病看護認定看護師の経験を活かして特定行為研修を履修し、今年度から糖尿病ケアを担当しています。特定行為とは、診療の補助として院内で定められた手順書に基づき、医師の指示を待たずに実施することができる38の医療行為を指します。私はそのうちの3行為（インスリン投与量の調整、持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、

勤続年数：15年（看護師歴26年） 趣味：乗馬

脱水症状に対する輸液による補正）を行います。これは、きたるべき超高齢社会に向けた対策として厚生労働省が掲げている制度で、在宅医療の推進、医師の負担軽減、重症化予防を目的としています。
今後は糖尿病専門医と緊密に連携をとりながら、在宅医療の充実や患者さんへの支援を強化していきたいです。患者さんと、ご家族の生活背景までを考慮した、看護師だからこそできる支援を行っていくことが目標です。

看護部 糖尿病看護認定看護師
慢性疾患管理モデル（糖尿病ケア）
内田みさ子

no.12





かけはし

地域の健康をまもる
連携医療機関の紹介

Vol.08

医療法人社団 希望会 烏山診療所

住所：茨城県土浦市烏山二丁目 530-386
 電話：029-843-0331
 診療科：循環器内科、呼吸器内科、リハビリテーション科
 診療時間：午前／08：30～12：00
 午後／15：00～17：30
 休診日：木曜日、祝日、月曜日午後（往診）、日曜日午後
 （土曜日午前・午後および日曜日午前は診療）
 URL：http://www006.upp.so-net.ne.jp/karasuyama/

二 挨拶
 当診療所は、患者さんが受診しやすい身近な診療所として、地域に密着したプライマリ・ケアの実践を目指しています。また、在宅支援診療所として24時間応需体制のもと、訪問診療も積極的に行っています。専門的な治療が必要な患者さんには、連携する医療機関へのスムーズな紹介を心がけ、退院後の継続診療と在宅医療を担います。

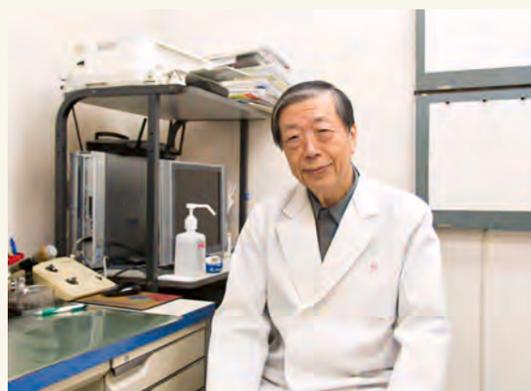
患者さんを生活者として捉える基本的な視点に立ち、訪問看護ステーション「のぞみ」、訪問介護ステーション「マナ」、訪問リハビリテーション「烏山」、烏山診療所居宅介護支援事業所を併設しています。地域の施設や訪問看護、行政、ケアマネジャー等との連携を密にした包括的な地域医療の実践に力を注いでいます。

土浦協同病院には、入院依頼や専門外来への紹介を懇切に応需していただいております。地域医療の継続には緊密な連携が不可欠であり、より一層の発展を願っています。

アクセスマップ



今高 國夫 院長



当院の面会受付は防災センターが担当しています。下記の面会時間内は1階エレベーター前にてお声かけいただき、面会時間外は防災センターまでお越しください。また、面会受付のほかにも駐車場の整理や、空調、電気系統、エレベーターなど院内設備の監視も行っています。

病院敷地内はとて広く、ご不便をかけることもあるかと思えます。来院された患者さんやご家族の方が、少しでも快適に過ごしていただけるよう努めています。



基本情報

場所：1階夜間出入口
 受付時間：24時間
 ※エレベーター前の面会案内は13：00～19：00までになります。上記時間外は防災センターまでお声かけください。

面会時間のご案内

全日 13：00～19：00

アクセス



土浦協同病院には様々な施設があります。快適に過ごしていただくための施設から、見つけたらちよっとうれしい「なにか」まで、院内のあらゆるスポットを紹介します。



今こそ学ぼう!

糖尿病

～健康寿命を延ばすために～

6月9日(土) 鹿嶋勤労文化会館
6月16日(土) つくば国際会議場
7月1日(日) 土浦協同病院
※いずれも 14:00～16:30 (受付開始 13:30～)

当院の医師(代謝・内分泌内科、腎臓内科)や看護師、医療スタッフが糖尿病について解説します。血糖測定コーナーも設けています。入場無料となっていますので、お気軽にご参加ください。

お問い合わせ：土浦協同病院 地域医療連携室 (Tel) 029-846-3682



患者さまの声

→ voice

症状がよくなってきたからと他病院に移動させられたり、他の病院で病気が悪化した場合などは薬を変えさせられたり、病院の都合で患者を振り回すのはやめてほしい。出来ればこのまま通院したいです。

← answer

厚生労働省では、当院のような400床以上の病院の役割は急性期の患者さまを診察することであるとしており、症状が落ち着いた患者さまには地域の診療所で継続治療をしていただくのが望ましいとの方針を打ち出しております。

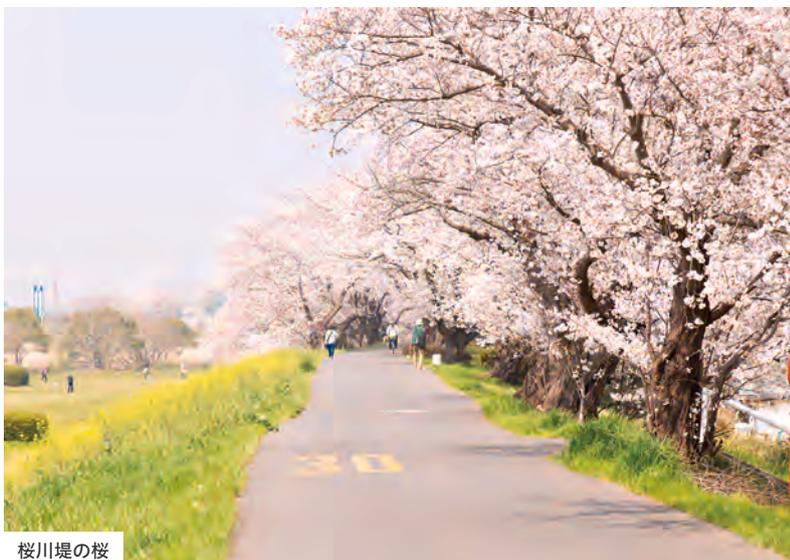
そのため、当院と地域の診療所は、互いに連絡を取り合って慢性期の患者さまが安心して診療所で診ていただけるように連携を強化しております。ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

編集後記

表紙の写真はドクターヘリからの救急搬送を受け入れている場面です。ドクターヘリは医療スタッフのほか、操縦士や整備士、運行管理担当者など様々なプロフェッショナル達によって支えられています。

touch (タッチ) は土浦協同病院の広報誌です。タイトルには、地域とふれあい、私たちの理念を地域の皆様に届けたい、という願いを込めました。

発行所/総合病院 土浦協同病院
編集/病院機関誌委員会 地域医療連携室
発行人/酒井義法
MAIL / general@tkgh.jp



桜川堤の桜